

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501057		
法人名	宗教法人天理教飯田市分教会		
事業所名	グループホームいこいの里		
所在地	飯田市羽場権現1611-2		
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果市町村受理日	平成24年4月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成24年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域社会の中で、自立とふれあいを大切に高齢者の尊重を守り明るく健やかに暮らせるよう生活全体に亘る支援をしています。入居者、職員が共に「ようきぐらし」を実現できるよう、感謝、慎み、たすけあいの心を持った生活を心がけています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>宗教法人として「一人暮らしの方や大変な方のお世話をしたい」の思いで、介護センターやサポートホームを運営してきた。ホームも活動のなかで必要性を考えて開設し、7年が経過している。自己評価・外部評価を定期的に受け、結果を真摯に受け止め改善を図り、向上に努めている。地域との関係づくり、利用者にあった介護計画作成に向けての取り組み、防災や身体拘束についてホーム独自で職員へのアンケートを実施しての研修会など、前向きな姿勢がみられる。6人の定員で、職員も穏やかに接しており、全体がやさしい雰囲気となっている。今後、さらに研修を深められ、サービスの質の向上に向けて取り組まれることを期待したい。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所は認知症高齢者の法令を理解し、独自の理念を持っている。利用者一人一人がその人らしく生活できるよう管理者、職員共に理念を共有し、理念の実現に努めている</p>	<p>宗教法人の「陽気らし」の考え方を基に、「感謝・慎み・たすけあい」を理念としている。認知症について学びながら、一人ひとりを大切に、利用者同士、利用者職員が助け合い、仲良く暮らせるよう支援している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会、老人会地域活動の場へパンフレットを配りホームの事をわかって頂けるよう努力し、公民館の活動も知らせて頂き、参加できるものは参加している</p>	<p>自治会へは、宗教法人として加入している。定期的に絵手紙のボランティアがきてくれたり、近所の小学生がホームの行事に来て一緒に楽しんでくれる。地区のお祭りの山車がホームへも寄ってくれるなど、好意的である。地区文化祭に作品を出展して、みんなで見学に行くなど交流が広がっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>現在特に活動はないが、お世話になっている地域に少しでも恩返しができるよう努めます</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に関き、報告や話し合いを行っている。また実際にサービスの向上につながっている</p>	<p>自治会長、民生委員、老人会、ボランティア、家族、包括職員の参加で、2ヶ月に1回開かれている。外出について相談して場所を提案してもらったり、地区の行事への参加についてアドバイスをもらって、サービスの向上に活かしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市の行事等又、ホームでの行事も連絡し合っている。密に連絡を取り合いよりよいサービスを提供できるよう努めたい</p>	<p>推進委員会のときには、包括支援センターの職員に状況を話している。必要に応じて連絡や相談に出向いている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員間で勉強会を行い身体拘束について学び、決して拘束がないようケアをしています</p>	<p>身体拘束の11項目について職員のアンケートをとり、それも含めて資料を作って勉強会を行った。転倒の危険のある利用者に、家族の了解を得て、夜間ベッドから動く反応するセンサーをつけているが、この件についてもみんなで確認しあっている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員間で勉強会を行い虐待について学び、決して虐待がないよう努めています</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は勉強会で学び、管理者は研修を受け必要人には活用し、また、活用できるよう支援しています</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際十分な説明をし、納得された上で印を押して頂き、契約を結んでいます</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者やご家族より意見が聞けるよう意見箱を設置し気兼ねなく意見を頂けるよう対応している</p>	<p>入居時に、支払いを兼ねて月一回は面会に来ることをお願いしており、ほとんどの方が面会に来られる。面会時には、お茶を一緒に飲んでもらったりしながら、意向や話を聞いている。運営推進会議には、全員の家族に呼びかけており、会議で意見を聞く機会もある。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>特に場を設けてはいないが、その都度話し合いをし、必要なことは反映させている</p>	<p>パート職員も含めたヘルパー会を2ヶ月に1回開き、その中で意見を出してもらっている。日常的には、申し送りの時間を活用している。施設の環境整備で、洗面所の改修など出された意見をもとに改善している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用時に出来るだけ勤務しやすいよう、また、やりがいを持って勤務できるよう話を聞くようにし、雇用後も働きやすいよう環境や、条件の整備に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員がよりよいケアを提供できるよう、継続研修を年間1回以上受けるよう規定に定め研修を受ける事を推進しています		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの管理者、職員が交流する機会を持ちサービスの質を高められるようしている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の安心と、関係づくりで一番大切な時期ですので、ご本人の思い、ご家族のお話をよくお聞きし、ご本人の思いを受け止めていけるよう心がけている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み、不安に思っていることをよくお聞きし、少しでも不安が和らぐよう、また、安心して入所して頂けるよう努めています		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の事情をよくお聞きし、ホームで出来るサービスを検討し、ご本人、ご家族に必要なサービスを第一に他のサービス利用も含めた対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念にあるように、職員、ご本人が共に喜びをもって過ごし、お互いにたすけあい、お互いに感謝し合いながら日々を大切に過ごせるよう努めています		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と、ご家族の生活歴や、事情をよく理解して、よりよい関係が続くよう努めています		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん、ご友人等が気軽に訪問して頂けるよう努めます。また、ご本人が描いた絵手紙を送り、関係の継続を支援しています	家族の面会が月1回はあり、その時、兄弟や甥、姪等も一緒に来訪されることもある。友人の面会もある。絵手紙を身内に送る、絵手紙カレンダーを送るなどの支援も行っている。家族の協力で、温泉や墓参りにいくなどもされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活が違ってきたので、そのことを理解し、共に生活する者同士孤立することなく、関わり合いをもてるよう支援しています		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご相談等に応じています。また解約時にその旨をお伝えることで退所後もフォローできるよう努めています		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、またこれまでの暮らしをよくお聞きし意向を把握できるよう努めています。また困難な場合でも少しでもご本人の思いに添えるよう検討している	センター方式のシートを使用し、家族からも情報を得て、利用者の状況や思いを把握しまとめている。日頃の会話からも、希望等聞くように努めている。アセスメントシートは、半年に1回見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係者よりお話を聞き、またアセスメント等情報の把握に努めています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれが生活の中で観察し、情報を共有し一人ひとりの現状の把握に努め、また適切なケアが出来るよう努めています		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、関係者、と話す機会を持ち、また、職員の気付いたことや意見等から計画書を作成しています	担当者会議は2ヶ月に1回開催し、モニタリングを半年毎に行い、話し合いで出された意見を参考に介護計画を作成している。家族や利用者とは、家族の面会時等に説明し希望等聞いている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの経過記録と、申し送りノートで情報を共有し、ケアへの実践に活かし、またそれを計画書の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの状況、ニーズをよく見極め、必要な場合には他のサービスも含めご本人、ご家族にとってよりよいサービスへの支援ができるよう努めています		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に絵手紙を教えて頂き、作品を家族や、知人に送ったり、地域の文化祭で発表させてもらったりすることで、楽しみと目標を持って取り組めるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>地域のなじみの医師に主治医をして頂き、定期的な往診で事業所はもちろん入所者も安心しております。また、これまでのかかりつけ医への受診もご家族にも協力していただきご本人の希望に添えるよう支援しています</p>	<p>かかりつけ医は、家族等や利用者の希望を大事にしている。現在は、協力医が主治医となり、月1回の往診をしてもらっている。夜間や緊急時の対応等協力関係があり、適切な医療が受けられるように支援している。受診は、家族が対応している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけの看護師に相談等、連絡を取り合い、状況に合わせた対応が出来るよう努めています</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は病院関係者、ご家族と連絡を取り合い情報の交換等、ご利用者、ご家族が安心して治療できるよう努めています。また協力医療機関にはそうした場合に備えて対応して頂けるよう関係づくりをしている</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者の状態の観察、把握に努め、ご利用者の思いを家族、医師と話し合い、よりよい終末を迎えられるように支援しています</p>	<p>重度になった場合、法人のサポートホームで対応することで、看取りはやらない方針である。利用者や家族等には、口頭で説明をしている。</p>	<p>重度化や終末期に対する、利用者や家族等の考えを文書で確認し、それに対してホームの方針で、どこまで支援ができるのか話し合っていることが望まれる。また、職員も方針を共有して、ターミナルケア等具体的に職員研修をされることが望ましい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応として勉強会をし、また日々の申し送り等で注意点や、その時の対応等を話し合い、実践できるよう備えています。また、法人の看護師に勉強会をしていただいている</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>運営推進会議の中で、事業ホームの責任者より災害時の対応等を説明し協力を要請しました。実際に避難経路や防災設備なども確認して頂きました</p>	<p>火災・防災のリストを作り、火気管理や電気器具の管理等をチェックして職員の防災意識を高めている。年2～3回は、実際の避難誘導も含めて訓練を行い、消防署の指導ももらっている。自治会への協力依頼もできている。また、隣接する老健と一緒に訓練をする話もされている。</p>	<p>防災に関して、意識的に取り組まれているが、火災だけでなく地震災害や夜間想定訓練を行うなど、さらに災害対策を強化することを期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で一人ひとりの対応を確認し、その人を尊重した言葉かけや対応をしています	職員会で、利用者同士も言いたいことは、言うように、会話は制止しないでフォローする、利用者に対してマイナスの言葉は使わないなど、具体的に言葉かけなどを話し合っている。	今後、例えば接遇について学んだり、人格の尊重やプライバシーを損ねないことについて事例を挙げて具体的に検討するなど、定期的に基本に戻って考え、さらに介護の質をあげていかれること期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけなどで、ご本人の思いや、希望を引き出せるよう工夫し働きかけています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの暮らしを把握し、できるだけ一人ひとりの生活リズム、希望に沿って、その人らしく暮らせるよう支援しています		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを尊重し、言葉かけや洋服選びなど支援をしています		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事が困難にならないよう、調理や食器を工夫している。また、お膳立てや片づけなどそれぞれ出来る事をして頂いています	皮むきやお茶碗を拭くなど、それぞれができることを職員と一緒にやっている。献立は支援ホームの栄養士が立てているが、行事や季節に合わせ、五平餅を作ったり、流しそうめんにしたり、食事を楽しめるよう支援している。また、誕生日には希望の献立を取り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの既往歴や、今までの暮らしと、現状を把握しそれぞれに応じた支援をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>いつまでも美味しく食事出来るよう、言葉がけや見守りをしています。また状況によって介助をし、清潔、機能維持に努めています</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>なるべくトイレで排泄できるよう一人ひとりの排泄パターン、身体機能を理解し、おむつや失敗を減らすよう心がけています</p>	<p>全員がリハビリパンツを使用しているが、日中は、個々のパターンに合わせて声をかけトイレでの排泄を支援している。夜間は、オムツの方や転倒の危険のある方はポータブルトイレを利用している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>職員間で学ぶ機会を持ち、献立、個々に応じた食事形態の工夫、水分補給、体操など自然に排便できるよう取り組んでいる</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>できるだけ個人のタイミングに合わせて、安全に安心して入浴できるよう支援している。時には季節の行事等に合わせた薬湯を楽しんでもらっている</p>	<p>月火木金の週4日お風呂を準備して、2回は声をかけて入ってもらえるように支援している。必要な場合は水土も準備している。体調の関係で入れない場合は、清拭や足浴を行っている。季節に合わせて、ゆず湯・菖蒲湯など楽しんでいる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活のリズム、状況に応じ、その人が気持ちよく休息、睡眠をとれるよう支援している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や、薬局からの説明、資料をもとに個々にファイルを作成している。職員全員が把握し、また学ぶ機会を持ち理解に努めている。変化がある場合は医師に相談している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、お膳立て等生活の中で出来る事をしていただき、それぞれに張り合いや、楽しみを持って生活できるよう支援している。また、レクレーションや季節の行事で気分転換が出来るよう支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族やボランティアの協力で日常的な散歩の他希望される歌謡ショーや地域の催し物など、出かけられる支援しています	日頃は、庭に出たり、車を使っての買物や散歩などできるだけ希望に沿って行えるように支援している。家族やボランティアの協力を得て、歌謡ショーや地区文化祭の見学、お花見ドライブなど出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことの大切さを理解しています。本人が悲しむ事がないよう本人や、家族の意向、現状を話し合い本人の希望に添えるよう支援しています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎを希望された場合対応している。また、絵手紙を描きご家族や、友人に送る支援をしています		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルな間取りで分かりやすくなっています。また、季節の花や、それぞれの作品等を展示しています	回りは自然に囲まれ、広いガラス戸から外が眺められ、ベランダもある。食卓の横にはテレビコーナーがあり、みんなでテレビを楽しんでいた。お雛さまや菜の花・ねこやなぎが飾られ、自分たちで描いたチューリップの絵手紙が展示されるなど、季節感を採り入れ、暖かなやさしい雰囲気居心地のよい工夫がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でもそれぞれが過ごせるよう支援しています。また、気のあったご利用者同士が隣になるよう工夫しています		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は馴染みのタンスや家具でご本人にとって居心地がよく、安心して生活できるよう支援しています。また安全に過ごせるよう工夫しています	人形、たんす、飾り物、テーブルなど馴染みや好みの物を置いたり飾ったりして、居心地よく暮らせる工夫がされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋割りも含め、一人ひとりが安心して安全に過ごせるよう工夫しています。また、レイアウトを工夫しご本人の自立を支援しています		

目標達成計画

作成日: 平成24年3月27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期について、利用者や家族等と十分な話し合いや文章の確認が不十分である	重度化や終末期に対して、利用者や家族等と十分な話し合いを持ち文章での確認をとる	重度化や終末期に対する、利用者や家族等の考えを文章で確認し、それに対してホームの方針で、どこまで支援できるのか話し合いをもつ。また、職員も方針を共有してターミナルケア等具体的に研修を行う	
2	35	地震災害や夜間想定訓練や、大きな揺れに対する対策が十分ではない	火災だけでなく地震災害や夜間想定訓練等を行う	夜勤者を中心に夜間起きた災害に対してシュミレーションを行う。大きな揺れを想定して家具や物などの置き場等を見直す	
3	36	入居者と職員の関係が馴れ合いの関係になってないか。呼び方など一人ひとりに対してきちんと職員の間で話し合いがもたれていない。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をする	接遇について学んだり、人格の尊重やプライバシーについての職員研修を行う。定期的に基本に戻って、さらなる介護の質の向上を目指す	
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
目標達成計画